

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-136	24-070	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Influence of tobacco smoking and alcohol drinking on dysmenorrhoea: a cross-sectional analysis of data from the Taiwan Biobank タバコと飲酒が月経困難症に与える影響：台湾バイオバンクを用いた横断研究		
執筆者		
Kuo CS, Wang KT, Lai JC, Chen SJ.		
掲載誌		
BMJ Open. 2025 Feb 26;15(2):e088537. doi: 10.1136/bmjopen-2024-088537.		
キーワード		PMID
タバコ、喫煙、飲酒、月経困難症、台湾		40010827
要旨		
<p>目的：喫煙と飲酒が月経困難症に与える影響を横断研究で明らかにする。</p> <p>方法：台湾バイオバンクの参加者 29621 人のうち月経困難症に関する質問に回答した 8567 人のデータを分析対象とした。ロジスティック回帰分析を用いて月経困難症に対する喫煙や飲酒等の多変量調整オッズ比と 95%信頼区間(OR(95%CI))を算出した。</p> <p>結果：喫煙と飲酒習慣の有無の割合は、非喫煙・非飲酒 92.1%、喫煙のみ 5.8%、飲酒のみ 1.4%、喫煙・飲酒 0.7%であった。ロジスティック回帰分析の結果、喫煙・飲酒の両方の習慣がある者の月経困難症リスクは非喫煙・非飲酒より高く (OR(95%CI);3.19(1.51-6.72))、喫煙のみ (OR(95%CI);1.21(0.89-1.63))、飲酒のみ (OR(95%CI);1.06(0.53-2.13))のリスクは明らかでなかった。さらに、高学歴や早発月経も月経困難症との関連を認めた。一方、習慣的な運動や多産は月経困難症に対して予防的な関連を示した。</p> <p>結論：喫煙や飲酒習慣は単独では月経困難症との関連を認めなかったが、両者が合わさると月経困難症のリスクが大幅に増加していた。生活習慣の複雑な相互作用が明らかとなり、生活習慣介入や是正の必要性が示された。</p>		